

事業の背景・目的

京北地域の里山ならではの豊かな自然環境を活用した体験機会を創出し、中山間地域の住民に加えて市街地等都市部の住民の生物多様性保全への関心を高めるとともに、中山間地域と都市部との交流を促進することにより、里山における地域経済の活性化を目指す。また、地元の生物多様性と深く関わる食にも注目をし、より多角的に生物多様性を体験できる機会の創出を目指す。京北地域には、希少な動植物が多く見られることはないが、都市部では見られない生物が豊かに生息しており、このような普遍的な生物多様性が今後も失われないよう継続的な取組を行う。

事業の内容

事業ア 京北地域定期生物相調査

- ・4回の調査をイベント形式にして複数地点で実施し、100名以上が参加
- ・令和4年度の結果と合わせて約110種の生物の生息を本事業で確認
- ・4回中1回の調査にて地元の漁業協同組合の方と連携
- ・見つけた生物は参加者とともにじっくり観察し、リリース



事業② カブトムシ・クワガタ飼育、昆虫食開発事業

- ・京北地域の乗馬クラブの敷地内（馬糞をたい肥化させる堆積場）などから野生のカブトムシを入手し、飼育
- ・昆虫食に加えて、地元の猟師の方と連携してジビエ食材や京北産の野菜や米を活用した料理の試食会イベントを実施



得られた成果

令和4年度には実施しなかった地点での生物相調査を実施したところ、一部の地点（小さな川）にてアメリカザリガニが多量に発見された。今後同地点にて在来の生物が生息しにくい環境にならないよう調査を継続し、アメリカザリガニの増加を阻止できるように検討する。カブトムシやクワガタの飼育については、広葉樹の少ない京北地域では採集するのが困難であったが、現地の乗馬クラブ内にて自然繁殖していることが分かり、捕獲のうえ飼育に取り組んだ。試食会イベントでは子どもから高齢者まで幅広い年齢の方が参加したが、京北の生物多様性について五感で体験できたことから非常に高い評価を得た。昨年度から引き続き反響のあった生物相調査は、次年度以降も継続して実施していく。また、猟師の方とも引き続き連携をし、京北の資源を有効に扱える食育イベントも継続して実施していく。今年度の参加者は合計110名であり、昨年度から引き続き参加された方や年度内で繰り返し参加される方も多く、地点による生物相の違いに関心を持たれていた。また、中には本事業で実施する調査会とは別で個人で京北へ訪れるようになった方もおり、京北地域と都市部の交流人口に貢献できていると感じられた。